

日本共産党県議団は、6月13日(水)・14日(木)の2日間、上伊那地方の現地調査を実施し、伊那建設事務所管内の「横川ダム」、及び横川川の災害復旧現場、改築マスタープランが策定された「駒ヶ根病院」、伊那市の風力発電計画現場を視察し、伊那市長と懇談しました。

山頂の巨大な風力発電用風車は、自然環境へ大きな負荷

入笠山の風力発電問題で伊那市長と懇談

6月14日、伊那市長谷の鹿嶺(かれい)高原から入笠山にかけて、三峰川発電所・丸紅が建設を計画している風力発電について、地元の方の案内で現地視察をした後、この計画に反対している伊那市の小坂市長と伊那市役所で懇談しました。

標高1800mの稜線沿いに、高さ100m、羽の長さが30～40mの風車を60基ほど設置するという計画で、この建設のためには道路の拡幅や、設置場所を掘削してコンクリートを詰める必要があるうえ、風車の耐用年数は20年にも満たないとのことで、不要となったものはそのままにされる可能性が高いということです。風力発電そのものはクリーンエネルギーといわれていますが、このような計画では、却って自然環境に大きな負荷をかけることとなります。

小坂伊那市長は市内各地で市民と懇談しており、市役所に寄せられる市民からのメールも殆ど計画に反対する内容とのことで、「県会でも会派を超えて協力してほしい」とのことでした。

実効性の高い「アセスメント条例」の制定が必要

6月21日に招集される長野県議会には、風力発電装置を環境アセスメント条例の対象にするための条例案が提案されています。伊那市の他、須坂市の「峰の原高原」にも風力発電装置の計画が進んでいます。長期的に見た、自然環境への負荷の少ないエネルギー政策を実現するための実効性ある「アセスメント条例」の改正が必要です。

早急な改築と、地域の受け皿作りが必要 ～ 駒ヶ根病院の視察

駒ヶ根病院では、樋掛院長から現在検討中の「マスタープラン」について説明を受けた後、院内を視察しました。建物は築後40年以上経過しており、入院患者さんや働くスタッフのおかれている環境は劣悪です。改築計画の中では、病床数は現在の235床を120床に減らすことになっており、スーパー救急を視野に入れた救急・急性期医療を担う病院にすることになっていますが、地域における患者さんの受け皿も併せて整備していくことが重要です。

また、ここでも医師確保は極めて深刻な状況でした。駒ヶ根病院は県立の精神科・神経科の病院として、これまで多くの実績をあげ、アルコール依存症や薬物中毒などの治療でも評価されています。医師確保のための抜本的な対策が早急に必要です。

6月県議会は6月21日から7月9日まで開かれます。

ご要望をお寄せください

連絡先：日本共産党長野県議団 長野市南長野幅下692-2
TEL 026-237-6266 FAX 026-237-6322

ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail jcpngnk@avis.ne.jp